

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。



連絡先 福井県農業試験場病害虫防除室  
TEL 0776-54-9315  
FAX 0776-54-5106  
E-mail byogaichu-boujo@pref.fukui.lg.jp jp



福井県病害虫防除室 検索

令和8年農作物病害虫発生予察予報第3号

5月の気象概況

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率60%です。

【水稲関係】

病害虫名 苗いもち

1 予報内容

発生時期：初発は5月上旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 育苗施設内の換気に気を付け、過湿にしないようにする。
- (2) 育苗施設内や周辺に放置してある稲わらや籾殻は、伝染源となるので除去する。
- (3) 発病の恐れがある場合や発生を確認した場合には、液剤、水和剤で防除する。育苗期の苗いもちを抑える他、本田での葉いもちの抑制にも効果がある。
- (4) 5月中旬移植コシヒカリ栽培では、必ず育苗箱施薬を行う。
- (5) 育苗ハウスで、野菜等の後作物を栽培する場合は、育苗箱処理剤の播種時使用をしない。また、移植当日に使用する場合は、ハウスの外で散布処理を行う。

病害虫名 褐条病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

1 予報内容

発生時期：発生最盛期は5月中旬

発生程度：少発、局中発

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 催芽、出芽が高温（30℃以上）にならないようにする。
- (2) 育苗ハウスの温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し、健苗育成に努める。また、灌水に湖沼や河川の水は使用しない。
- (3) 種子消毒は静水で行い、薬剤を種子へ浸透させる。
- (4) 褐条病はハトムネ催芽器を使用すると発生が多く、温湯消毒では効果が不十分であるので、

催芽温度の管理、水のかまめな交換、使用後の洗浄等の対策を徹底する他、発病が懸念される場合、催芽時に食酢200倍液浸漬処理する。

(5) 発病後の防除薬剤（治療剤）はないので、上記の予防対策を徹底する。

#### 病害虫名 イネミズゾウムシ

##### 1 予報内容

発生時期：成虫の本田侵入初期は5月3半旬頃、侵入最盛期は5月4半旬頃

発生程度：少発、局中発（山間・山沿い）

発生量：平年より多く、前年並

##### 2 防除対策および防除上の注意点

(1) 毎年発生が見られる地域では育苗箱施薬を行う。

(2) 湛水土壤中直播栽培で種子コーティング時に殺虫剤を混入していない場合、被害が大きくなる恐れがあるので観察を徹底し、被害の恐れがある場合は早期に防除する。

#### 病害虫名 イネゾウムシ

##### 1 予報内容

発生時期：成虫の本田侵入初期は5月3半旬頃

発生程度：少発、局中発（山間、山沿い）

発生量：平年より多く、前年並

##### 2 防除対策および防除上の注意点

(1) 窒素過多にならないように施肥基準を守る。

(2) 代掻き時、幼虫や成虫が多数認められる場合は育苗箱施薬を行う。また、イネ活着後、水際付近の茎に成虫が認められる場合には、薬剤防除を行う。

#### 病害虫名 イネヒメハモグリバエ

##### 1 予報内容

対象作型：直播栽培、移植栽培（5月下旬以降）

発生時期：加害初期は5月5半旬頃

発生程度：少発、局中発

発生量：平年よりやや少なく、前年並み

##### 2 防除対策および防除上の注意点

(1) 直播栽培は被害を受けやすいので、深水管理を避け、産卵場所となる浮き葉やたれ葉を減らす。

(2) 発生が多い場合は、幼虫発生初期に薬剤を散布する。

#### 【大麦関係】

#### 病害虫名 赤かび病

##### 1 予報内容

発生時期：初発は5月上旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年よりやや多い

##### 2 防除対策および防除上の注意点

(1) 防除を行う場合、薬剤選定時にRACコードを確認し、同一系統の薬剤の連用を避ける。

(2) 赤かび病が発生すると、赤かび粒を除去することが難しいので、圃場審査を厳重に行い、発生が見られる場合は、別仕分けを行う。

(3) 揺動選別機で比重の軽い麦は除去する。

【野菜関係】

| 野菜名          | 病害虫名             | 予 報 内 容       |              |                  | 防除対策および防除上の注意点   |
|--------------|------------------|---------------|--------------|------------------|--|
|              |                  | 発生時期          | 被害程度         | 発 生 量            |  |
| ネギ           | さび病              |               | 少 発          | 平年：やや少<br>前年：並み  | 1)適正施肥に努め、草勢を良好にする。<br>2)同一系統薬剤の連用は避ける。<br>3)液剤散布の際には、展着剤を加用する。                  |
| アブラナ科<br>野 菜 | モンシロ<br>チ ヨ ウ    | 加害盛期：<br>5月中旬 | 少 発<br>(局中発) | 平年：やや少<br>前年：少   | 1)加害初期の若齢幼虫期に防除する。<br>2)対象作物により薬剤が異なるので、作物ごとに適切な防除をする。                           |
|              | コナガ              | 加害盛期：<br>5月上旬 | 少 発<br>(局中発) | 平年：多<br>前年：少     | 1)定植期から発生初期にかけて、防除する。<br>2)対象作物により薬剤が異なるので、作物ごとに適切な防除をする。                        |
| ウリ類          | ウリハムシ<br>(越冬成虫)  | 初発期：<br>5月上旬  | 少 発<br>(局中発) | 平年：やや多<br>前年：やや多 | 1)対象作物により薬剤が異なるので、作物ごとに適切な防除をする。   |
| 全 般          | アブラムシ類           | 初発期：<br>5月上旬  | 少 発<br>(局中発) | 平年：やや多<br>前年：やや多 | 1)定植期から発生初期にかけて、防除する。<br>2)対象作物により薬剤が異なるので、作物ごとに適切な防除をする。                        |
|              | ネギルミ類<br>(カブラヤガ) | 加害盛期：<br>5月上旬 | 少 発<br>(局中発) | 平年：並み<br>前年：並み   | 1)被害の早期発見に努める。特に、本年は発生時期が、平前年より早まっているため注意する。<br>2)対象作物により薬剤が異なるので、作物ごとに適切な防除をする。 |

【果樹関係】

| 果樹名 | 病害虫名                       | 予 報 内 容   |              |                 | 防除対策および防除上の注意点  |
|-----|----------------------------|---|--------------|-----------------|---|
|     |                            | 発生時期  | 被害程度         | 発 生 量           |   |
| ナシ  | 黒星病                        | 初発：<br>5月上旬   | 少 発          | 平年：並み<br>前年：やや多 | 1)脱苞期～交配直後にかけて重点防除する。<br>2)同一系統薬剤の連用は避ける。   |
|     | 黒斑病                        | 初発：<br>5月上旬   | 少 発          | 平年：並み<br>前年：やや多 | 1)脱苞期～交配直後にかけて重点防除する。<br>2)同一系統薬剤の連用は避ける。   |
|     | 赤星病                        | 初発：<br>5月上旬   | 少 発          | 平年：並み<br>前年：やや多 | 1)同一系統薬剤の連用は避ける。  |
| ウメ  | かいよう病                      | 果実初発：<br>4月中旬                                       | 少 発<br>(局中発) | 平年：やや多<br>前年：多い | 1)常発圃場では予防のため果実肥大期に抗生物質薬剤を散布する。<br>2)降雹や強風雨が合った場合、天候回復後すみやかに抗生物質薬剤を散布する。<br>3)防風垣や防風ネットを必ず設置する。     |
|     | ウメシロ<br>カイガラムシ<br>(第1世代幼虫) | 幼虫発生<br>初期：<br>4月6半旬<br><br>第1世代ふ化<br>開始予測日<br>4/26 | 少 発<br>(局中発) | 平年：並み<br>前年：並み  | 1)予測したふ化時期の1週間前から越冬雌成虫の産卵および幼虫ふ化時期を観察し、適期(ふ化数日後)に薬剤散布する。<br>2)越冬成虫のカイガラ着生が多い樹ではふ化初期とその7日後の2回薬剤散布する。 |

| 果樹名 | 病害虫名   | 予 報 内 容              |              |                 | 防除対策および防除上の注意点  |
|-----|--------|----------------------|--------------|-----------------|---|
|     |        | 発生時期                 | 被害程度         | 発 生 量           |   |
| ウ メ | アブラムシ類 | 加害初期：<br>4月中旬        | 少 発<br>(局中発) | 平年：やや多<br>前年：並み | 1)新梢先端部を観察し、発生初期に<br>すみやかに薬剤を散布する。<br>※主に新葉を加害。縮葉する。              |
|     | コスカシバ  | 幼虫加害<br>初期：<br>4月上中旬 | 少 発<br>(局中発) | 平年：やや多<br>前年：並み | 1)5月上旬にスカシバコンLを10a<br>当たり50本、枝に設置する。<br>2)幼虫の侵入部位を見つけ次第、<br>捕殺する。 |

【花き関係】

| 果樹名 | 病害虫名   | 予 報 内 容      |              |                  | 防除対策および防除上の注意点                                     |
|-----|--------|--------------|--------------|------------------|--|
|     |        | 発生時期         | 被害程度         | 発 生 量            |  |
| キ ク | アブラムシ類 | 初発期：<br>5月上旬 | 少 発<br>(局中発) | 平年：やや多<br>前年：やや多 | 1)同一系統の薬剤の連用を避ける。<br>2)圃場周辺の除草に努める。                |
|     | アザミウメ類 | 初発期：<br>4月下旬 | 少 発<br>(局中発) | 平年：やや多<br>前年：やや多 | 1)同一系統の薬剤の連用を避ける。<br>2)早期発見に努め、密度の低いうち<br>に薬剤防除する。 |